

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
藤原 正恵			
火3、4			
添付ファイル			

科目の概要	リハビリテーションの概念・目的・方法およびリハビリテーションが必要な対象者について、身体的・心理社会的側面から理解できるように、必要な援助方法について概説する。 さらに、それぞれの生活機能障害をもつ人についての病態と対象に応じた援助方法を理解できるように教授する。
授業の内容	<p>第1回 リハビリテーションの概念、関連する法律・サービス リハビリテーションに関連する法律について、事前に学習をし、その知識を活用しながら学習する必要性を見いだす。</p> <p>第2回 生活機能障害をもつ人とその家族の理解 生活機能障害をもつ人とその家族の理解をする。</p> <p>第3回 リハビリテーション看護に必要な概念と理論 リハビリテーション看護に必要な概念と理論について、実習の事例を活用しディスカッションを行う。</p> <p>第4回 リハビリテーション医療の専門性と役割、多職種との連携 リハビリテーション医療に携わっている専門職について理解し、多職種とスムーズに連携をとっていくため の方略について考えることができるようにする。</p> <p>第5回 生活機能障害とリハビリテーション看護-1（高次脳機能障害）</p> <p>第6回 生活機能障害とリハビリテーション看護-2（運動障害）</p> <p>第7回 生活機能障害とリハビリテーション看護-3（呼吸機能障害）</p> <p>第8回 生活機能障害とリハビリテーション看護-4（循環機能障害など）</p>
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの定義、目的・方法がわかる。 2. リハビリテーションに関連するサービス・法律について説明できる。 3. 生活機能障害をもつ人とその家族について身体的・心理社会的側面から理解できる。 4. リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論について理解できる。 5. 生活機能障害別に応じた看護および援助方法がわかる。
授業の方法	<p>【授業形態】 講義とグループワーク</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>【その他特記事項】</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 レポート100%</p> <p>【割合】</p>
教科書・テキスト	酒井郁子他編：リハビリテーション看護 改訂第2版、南江堂
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 奥宮暁子編：ナーシング・グラフィカ成人看護学⑤ リハビリテーション看護 第3版、メディカ出版 2. 落合芙美子監：新体系看護学全書（別巻）リハビリテーション看護 第2版、メヂカルフレンド社 3. 武田宜子他：系統看護学講座（別巻）リハビリテーション看護 第6版、医学書院 4. 中西純子編：成人看護学 リハビリテーション看護論 第2版、ヌーヴェルヒロカワ
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	領域実習および学内演習で体験した内容を整理しておくこと
履修上の留意事項	2コマ続きの授業ですので、休まないこと。
オフィスアワー	毎日昼休みまたは、16：20以降
課題に対するフィードバックの方法	授業時に行う。
実務経験	看護師